

葉山町立一色小学校

研究テーマ：「生活・総合」で育む力の系統だてと探究的な学びのある授業づくり

1 実践の目的

一色小学校は、葉山町が設定した校内研究テーマ「9年間を見通した探究的な学びの推進～生活科・総合的な学習の時間を中心に～」に基づき、今年度の研究テーマを『「生活・総合」で育む力の系統立てと探究的な学びのある授業づくり』に設定した。

一つ目の「生活・総合」で育む力の系統だてでは、学校目標をもとに、一色小学校の「生活・総合」の目標を定め、「各学年で身につけたい力」を系統だてできるように整理することを目指した。二つ目の探究的な学びのある授業づくりでは、各学年で探究課題を決め、学習過程を探求するための単元計画（単元構想図）などを研究することを中心に取り組み、実践例の共有の仕方・方法・蓄積方法の仕方を研究していく方向で共通確認しながら取り組んだ1年目であった。

2 実践の内容

(1) 校内研究の体制

今年度は、各学年で年間計画を立て探究課題を設定し、学習過程の実践をまとめていく方法で行った。定期的に、学年会やブロックで研究日を設けて話し合った。また、年間3回講師を招いて校内研修会を行った。

(2) 校内研修会の様子

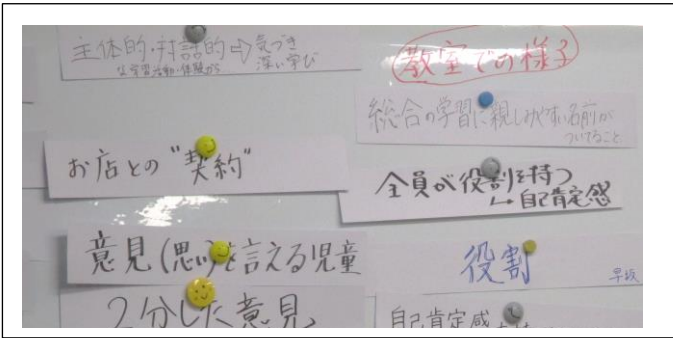
①7月の研究全体会では、学年ごとに生活・総合の年間計画の概要を説明し、1学期の実践について具体的に報告した。

その後、1学期の実践で「何に困っているか」「今後、どう展開するか」などについて、講師の慶應義塾大学教授佐久間亜紀先生に、「生活科・総合的な学習の時間を探究的にすすめるために」の講演の中で具体的に詳しく答えていただくこともでき、有意義な時間であった。

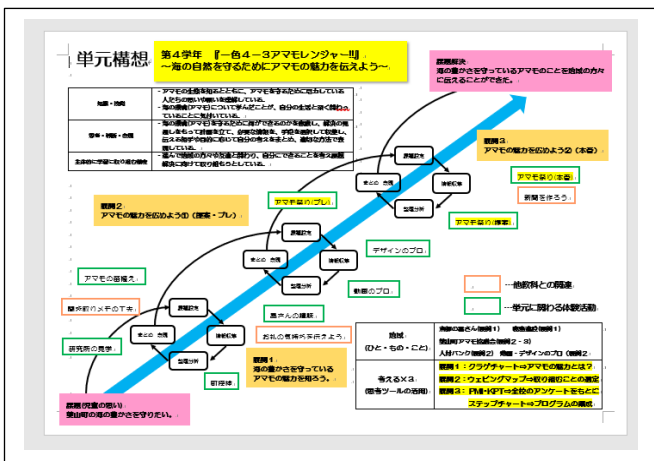
②8月の校内研修会では、横浜国立大学教授の金馬国晴先生を講師に迎え、「生活科・総合的な学習の内容を考える、出す、絞る、立て直す～問いから育てたい力へ～」の講演して頂いた。探究的な学習によって、どんな力を育てたいのか。「問い」の立て方と育てたい資質・能力との関わり、児童の様子の見取り方について、専門分野である「コア・カリキュラム」「カリキュラム・マネジメント」などを軸にお話ししていただいた。また、各学年からの相談・質問にも答えていただいた。

③1月の校内研修会では、嶋野道弘先生に来て頂き「探究的な学びづくりへの挑戦」というテーマでお話を伺った。最初に、ある小学校5年生の総合的な学習の実践をビデオで視聴し、関心をもったところをカードに書いて職員みんなでキャプションをつける活動を行った。その活動を通じて、理想的な総合的・探究的な学習とは何かを考えた。また、支援級児童も参加しやすい総合の視点についても具体例を出してお話しいただいた。最後の質疑応答では、「どのタイミングでゲストティチャーに来てもらうのがよい

か？」という質問が出た。外部に頼ること、協力者への依頼はタイミングが大切だということなどを教えていただいた。「葉山町にも探究に値する素材がたくさんありそうですね」との言葉が心に残った。下の写真は、研修会でいったカードをまとめた場面である。



④各学年の実践を一部紹介すると、2年生の「生活科」では、3学期「町だいすき たんけんたい」の単元を「オリジナル地図づくり」の活動と学区たんけんをつながげながら各クラスで取り組んだ。自分の住む地域に目をむけ、友達の住んでいるところや自分の家の近くにあるよく遊ぶ公園など気になる場所を出し合い、地図を基に計画・探検したところを地図にまとめていく活動を繰り返した。低学年では、具体的な活動や体験が重要になることを改めて感じた。4年生では、各クラスで探究課題を設定し、各クラスの単元構想図・単元計画を作成した。以下に資料を示す。



3 実践の成果

研究成果の1つ目は、一色小学校の「生活科・総合的な学習の時間 全体計画」の案を作成し、「生活・総合」で各学年が育む力の系統立てがより具体的になったことである。特に、各学年の実践内容を「ふさわしい探究課題」として具体的に来年度へ示すことができたことが成果といえる。

2つ目は、各学年で探究的な学びを意識して実践に取り組めたことである。これまで各学年で取り組み方があいまいだった「生活科・総合的な学習の時間」について探究的な学びという視点から探究課題の設定、単元計画について考える1年間になった。

4 今後の展開

葉山町で小中一貫教育の実現に向けての研究は、今年度から始まったばかりである。この取り組みをきっかけにして、一人ひとりの教員が探究的な学びとは何だろうと日々の実践の中で意識していくことが大切なのだと感じている。

令和8年度には、町内研究発表大会が予定されている。引き続き「生活科・総合的な学習の時間」を中心とした探究的な学びについて研究を続けていくことになる。今年度の成果から探究的な学びを共有する単元構想図のような具体的なまとめ方も学年を越えて共有できることを目指したい。